

令和5年度

「運営に関する計画・自己評価(最終評価)」

大阪市立北中道幼稚園

令和6年3月

大阪市立北中道幼稚園 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 地域は温かく、『地域の子どもは地域で育てる』という思いで幼稚園教育にもご理解、ご協力をいただいている。地域の方々との連携を大切にしながら、新型コロナウイルス感染症拡大防止に努め、今できる形での交流を行ったり、教育活動や園児の様子を発信したりして、引き続き保育内容工夫していく。
- 南海トラフ地震がいつ起きてもおかしくないといわれている状況の中で、幼稚園・家庭・地域が連携することが大切である。引き続き家庭啓発として、避難訓練の様子を降園時に伝えたり、緊急時に備えた保護者合同訓練にて『引き取りカード』活用の仕方について折に触れて知らせたりする。また、大阪市防災アプリ、大阪市防災チラシなどについても周知し、災害時への防災意識を親子で高めていただけるよう啓発し続けていく。
- 教職員間連携についても、様々な状況に応じて臨機応変に対応する力を備えるよう研修等、積極的に参加し知識を高め、情報を共有していく。
- 異年齢活動に関しては幼児の成長も見られた。これまでの課題を踏まえ、2ブロック研究2年目取組のまとめに活かしていく。
- 近隣小学校のご理解もあり、昨年度4月と8月に授業参観の機会をいただいた。入学後の1年生の姿を見て、幼児期に育てたい資質・能力について考える大変いい機会となった。幼稚園の教員が幼小連携・接続の重要性を学び、質を高めるためにも近隣小学校との連携は欠かせない。校種間連携を工夫しながら、他校種の先生方にも幼稚園に来ていただく機会を設け、発信していきたい。また、教員自身が小学校教育について学び見識を広げたいと考えている。子ども同士の交流が難しい場合は校種間連携の方法を考えていきたい。引き続き、令和4年3月『幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版)』を活用しながら教員の資質向上につなげていく。
- コロナ禍を3年間過ごしてきた幼児の心身の状況も気になる。引き続き、幼児の実態を見ながら保健指導の在り方について内容を工夫していく。また、感染対策を講じながら保護者を招いて保健指導の情報発信について工夫する。
- 年間計画に基づいて、園内研修を行ったことで教員の資質向上につながった。今年度、園内研究保育2回目以降については自主的な学びとなるよう、教員の主体性を尊重し、何を学びたいのかを明確にしながら行う。
- 昨年度ホームページの写真アップについては、計画的に更新することが難しかった。教育発信の場であることを意識しながら速やかに更新する。

中期目標**【安全な・安心な教育の推進】**

- 令和7年度の本園保護者アンケート調査で「幼稚園は、子どもたちが安全に過ごそうとする意識がもてるような取り組みをしていますか」の項目について「そう思う(だいたいそう思う)」と回答する保護者の割合を90%以上にする。
- 子どもが安心して園生活が送れるよう教職員で共通理解を図り、日々の保育活動に生かし、令和7年度の本園保護者アンケート調査で「子どもは、幼稚園に行くことを喜んでいきますか」の項目の「そう思う(だいたいそう思う)」の割合を90%以上にする。
- 令和7年度の本園保護者アンケート調査で、「子どもは教師や友達との関わりを楽しんでいますか」の項目の「そう思う(だいたいそう思う)」の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の本園保護者アンケート調査で「幼稚園は家庭に向けて子どもたちの育ちを分かりやすく知らせていますか」の項目の「そう思う(だいたいそう思う)」の割合を90%以上にする。
- 令和7年度の本園保護者アンケート調査で、「幼稚園は、子どもや保護者に対して、基本的な生活習慣が身につくように、分かりやすく伝えていきますか」の項目の「そう思う(だいたいそう思う)」の割合を90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度の本園教職員アンケートの「園内研修が充実していたと思うか」の項目について肯定的に答える教職員の割合を90%以上にする。
- 令和7年度の本園保護者アンケート調査で「幼稚園は地域に向けて教育内容を分かりやすく発信していますか」の項目について「そう思う(だいたいそう思う)」の割合を90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 今年度の本園保護者アンケート調査で「幼稚園は、子どもたちが安全に過ごそうとする意識がもてるような取り組みをしていますか」の項目について「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を80%以上にする。
- 子どもが安心して園生活が送れるよう教職員で共通理解を図り、日々の保育活動に生かし、今年度の本園保護者アンケート調査で「子どもは、幼稚園に行くことを喜んでいますか」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を80%以上にする。
- 今年度の本園保護者アンケート調査で、「子どもは教師や友達との関わりを楽しんでいますか」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 今年度の本園保護者アンケート調査で「幼稚園は家庭に向けて子どもたちの育ちを分かりやすく知らせていますか」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を80%以上にする。
- 今年度の本園保護者アンケート調査で、「幼稚園は、子どもや保護者に対して、基本的な生活習慣が身につくように、分かりやすく伝えていきますか」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 今年度の本園教職員アンケートの「園内研修が充実していたと思うか」の項目について肯定的に答える教職員の割合を80%以上にする。
- 今年度の本園保護者アンケート調査で「幼稚園は地域に向けて教育内容を分かりやすく発信していますか」の項目について「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

- ・ 今年度、緊急時に備えた幼稚園・保護者合同訓練(2回)を1月と3月に実施した。家族間(カードを持参している方々)で『引き渡しカード』の確認等を行っていただく必要があることもわかった。
また、災害時への防災意識を親子で高めていただけるよう啓発内容を工夫していく。
- ・ 昨年度から引き続き、教職員間連携についての再確認、様々な状況に応じて臨機応変に対応する力を備えるよう、研修等、積極的に参加し知識を高め、情報を共有していく必要がある。
- ・ 異年齢活動(わくわくたいむ)については、学年ごとにねらいをもち、それぞれの発達段階や幼児の実態を踏まえながら教育内容を工夫してきた。日々、保育指導案に記録を取り、子どもの成長を振り返ると、あらためて教職員間の連携や見通しをもった教育活動のあり方、また、年間計画を立案し PDCA サイクルに基づいて次の手立てを考えていくことが重要であることがわかった。次年度の教育活動に活かしていく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・ 昨年度同様、4月・8月・12月に近隣小学校授業参観の機会をいただいた。入学後の1年生の姿を見て、幼児期に育てたい資質・能力について考える大変いい機会となった。幼稚園の教員が幼小連携・接続の重要性を学び、質を高めるためにも近隣小学校との連携は欠かせない。研究保育や運動会・作品展の際、小学校の校長先生をはじめ、教職員の先生方に幼稚園に来園いただき、幼稚園側から幼児教育について発信する機会をいただいたことは、幼小連携・接続の一步と言える。
1月には近隣小学校よりお声がけいただき、合同研修会に参加した。検討会ではクラスだよりを用いて、ドキュメンテーション形式で『遊びから学ぶ子どもの姿について』を発信する機会をいただいた。小学校教員の先生方の話も伺い、小学校教育を知る機会となった。今後、教員自身が小学校教育について学び見識を広げ、『幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版)』を活用しながら教員の資質向上につなげていく。
- ・ 引き続き、幼児の実態を見ながら保健指導のあり方、環境について工夫すると共に、外部講師を招聘し、保護者向けの教育情報発信についても検討していきたい。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ 年間計画に基づいて、園内研修を行ったことで教員の資質向上につながった。次年度、園内研究保育2回目以降については教員の主体性を尊重し、何を学びたいのかを明確にしながら、自主的な学びとする。
- ・ 今年度は、各学年学期に1回高齢者施設に訪問する機会をいただいた。子どもたちにとって初めての経験で、歌や手遊び・ダンスを披露したことで、高齢者の方々に喜んでいただいたり、沢山褒めていただいたりしたことが自信につながり、喜びいっぱいの経験となった。次年度も連携を図っていきたいと考えている。
- ・ 地域の方々による読み聞かせ、絵本の会『ピーターラビット』を通して、あらたな絵本との出会いや読んでいただくことを楽しみにしている子どもたちの姿が見られる。引き続き、連携を図っていきたい。
- ・ 昨年度に比べると未就園児親子の方々や地域の方々に行事等を通して、教育活動を見ていただいたり、行事に参加いただいたりする機会を設けることができた。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 ○ 今年度の本園保護者アンケート調査で「幼稚園は、子どもたちが安全に過ごそうとする意識がもてるような取り組みをしていますか」の項目について「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を80%以上にする。 ○ 子どもが安心して園生活が送れるよう教職員で共通理解を図り、日々の保育活動に生かし、今年度の本園保護者アンケート調査で「子どもは、幼稚園に行くことを喜んでいますか」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を80%以上にする。 ○ 今年度の本園保護者アンケート調査で、「子どもは教師や友達との関わりを楽しんでいますか」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を80%以上にする。	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 非常災害発生時に子どもも保護者も教職員も自らの命を守れる行動をとれるように、具体的な場面を想定した避難訓練を実施する。 ----- 指標 年10回、避難訓練を行い、その内、園児引き渡し訓練を年に2回実施する。	B
取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】 教職員が連携し、子どもの育ちを見通し、異年齢で関わる時間や環境を常に意識した保育内容を工夫する。 ----- 指標 学年でねらいを立て、学期に3回、異年齢で関わる機会をもつ。	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
○ 「幼稚園は、子どもたちが安全に過ごそうとする意識がもてるような取り組みをしていますか」・・・100% ○ 「子どもは、幼稚園に行くことを喜んでいますか」・・・100%。 ○ 「子どもは教師や友達との関わりを楽しんでいますか」・・・100% 【取組内容①】について 4月…火災（非常ベルの音を知らせる、3歳児は4・5歳児の様子を見る） 5月…火災（消防訓練） 6月…地震 7月…火災 9月…880万人訓練・地震 10月…火災（通報訓練） 11月…地震 12月…不審者 1月…地震・津波、園児引き取り訓練 2月…地震予告なし 3月…地震・津波、園児引き取り訓練2回目（実施予定） 入園・進級して間もない4月は非常ベルの音を知らせることから始まり、この音が鳴った時は、何か危険なことが園内で起きているということや、音を聞いたら教師のそばに集まるということを知らせた。特に3歳児は初めての訓練のため、避難方法が分かるように4・5歳児の避難の様子を見て真似るようにした。5月の火災の避難訓練では、消防署の消防訓練とともに、視覚物を使いながら『おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない』の『お・は・し・も』の約束を知らせ、自分の命は自分で守ることの大切さを伝えた。6月の地震の避難訓練では、最近立て続けに日本で起きていた地震についても知らせ	

ながら、防災頭巾の扱い方や頭を隠して守ることの大切さを伝えた。防災頭巾は実態に合わせて扱いやすいように保管場所を考えている。初めは、ベルの音に驚き、慌ててしまう姿や、ポケットにハンカチが入っておらず煙を吸ってしまう恐れのある子どもが多かったりしたが、教師の声掛けや、訓練の回数を重ねたことで、放送をしっかりと聞こうとしたり、避難方法を再確認しながら逃げようとしたりする姿が見られるようになってきている。

また、避難訓練があった日には保護者の方に様子を知らせると共に、引き取りカードを紛失していないかの確認を取るようになっている。

9月、地震の避難訓練を行った。教職員用の防災頭巾も準備し着用した。津波については視覚物を活用しながら知らせ、建物の3階以上に逃げることや、小学校に避難することもあるということを伝えた。降園時には、保護者にも視覚物を見せながら子どもの訓練の様子と共に津波の恐ろしさを伝えた。

10月の火災の避難訓練では実際に消防士の方々の指導のもと、教職員が通報するところから避難訓練まで立ち会っていただき消防通報訓練を実施した。教職員は消火訓練を実施したことで実際に火災が起きた時の連携の仕方や消火器の扱い方を再確認することができた。子どもも火災の危険性を知ったり、自分の命の守り方について知ったりするきっかけとなった。

12月の訓練では、不審者の侵入を想定して行い、子どもたちの安全な避難場所や教職員連携について共通理解し、訓練時には内線を使って避難状況を把握することができた。

また、元日に起きた能登半島地震を受けて、教職員間で保育室の環境や防災頭巾の取り扱いについて見直しをした。保護者や子どもたちにも見直したことを知らせ、災害があった時の避難方法や身の守り方を再確認することができた。1月には園児引き取り訓練を行ったが、実際に第2次避難場所である小学校の3階まで歩いて避難し津波が来た時の避難場所について確認し、保護者に引き取りカードを持って園庭まで引き取りに来ていただいた。実施後の保護者アンケートでは、「子どもと危険な箇所を話し合いながら帰った。」「元日の能登半島地震の際、子どもが自ら机の下に頭を守って避難しようとする姿が見られ、日頃の園での訓練が生かされていることを感じた。」「家族で避難場所について話し合うきっかけとなった。」などの声が寄せられた。

2月には抜き打ちの避難訓練（地震・津波）を実施した。

3月には教職員及び保護者に発生時間を知らせない避難訓練（地震・津波）と園児引き取り訓練を実施予定である。

【取組内容②】について

4月から1学期の間、5歳児が3歳児の登園時の手伝いを継続して行った。初めは言葉のやり取りが難しい3歳児への関わりに戸惑う姿があったが、回数を重ね、声のかけ方を自分なりに考えて関わる姿が徐々に増えてきた。3歳児は、日々5歳児と関わってきたことで安心して園生活を過ごせるようになった。遠足に行く際、4歳児と5歳児がペアを組み、一緒にふれあい遊びや園内探検をしたりして遊ぶことを楽しんだ。子どもたちが園庭で関わって遊べるように、子どもの興味や関心を捉え、環境を整えたところ、4歳児がお店屋さんごっこを楽しむ姿が見られた。お客さんになったり、ごちそうの作り方を3歳児に教えたり、一緒にごちそうを食べたり、異年齢でのやり取りを楽しむ姿が見られた。また、5歳児は土山の高低差を利用し、ボールや塩ビ管などを使って、友達と知恵を出し合い、試行錯誤しながら転がし遊びを楽しんでいた。5歳児の遊び方に興味をもって3・4歳児が真似をしたり一緒にやってみようと挑戦したりする姿が見られた。

5月の保育参観では「違う学年の友達とこんなにも関わって遊んでいることに驚いた」という保護者の声も聞こえた。異年齢の関わりを通した子どもの育ちを保護者に発信することができた。教職員間では、異年齢の関わりについて見通しがもてるように話し合いを重ね、学年ごとにねらいを立案、内容を検討し実践してきたことで、自然と異年齢の友達と関わって遊ぶ姿が増えてきたと言える。昨年度まではコロナ禍で異年齢交流も難しい状態であったが、5月以降は週に2回、全園児で集会を行ったり、毎月の誕生会も全園児で

参加したりしており、いろいろな友達と関わる機会を増やせるように保育内容を工夫したことも異年齢の友達に興味をもつ要因になっていると考えられる。

また、自分たちの学年で考えた遊びを違う学年の友達に見てもらったり褒めてもらったりする喜びや満足感から「もっと一緒に遊びたい」という気持ちが芽生え始めた。

2学期に入り、5歳児が「3・4歳児に体操やダンスを教えたい」と、異年齢交流を楽しみにしている様子が見られた。毎週木曜日の午後から『わくわくたいむ』と名付け、異年齢活動の時間を設けた。子どもたち自身が見通しをもって異年齢活動の時間を楽しめるように5歳児が『わくわくたいむ』が始まる前に園内放送することになった。

繰り返し遊ぶ中で縦割りチーム（わくわくチーム）をつくり、ミニミニ運動会では、わくわくチームごとに分かれてタッチリレーをしたり、手をつないでダンスをしたりして人との関りが楽しめるように工夫してきた。運動会后、3・4歳児は5歳児から和太鼓の叩き方やパラバルーンの遊び方を教えてもらえたことで、さらに5歳児への憧れの思いが強くなり、5歳児になることへの期待が高まり、一輪車や竹馬などの新しい遊びに挑戦する姿も見られ増えてきた。5歳児は、3・4歳児に自分たちが取り組んでいる遊びを教えることで自信につながり成長が見られた。

また、日頃から親しみをもって遊ぶ時間を確保してきたことで、園外保育もペアの友達と一緒に電車に乗ったり散歩をしたりする楽しさにつながった。

芋掘り遠足では、わくわくチームで芋を掘ったことで、隣にいる3・4歳児に優しく声をかける姿が見られた。芋を掘る楽しさに加え、異年齢の友達と一緒に過ごせる嬉しさや人の役に立てる喜びを味わっている様子が表情からも見て取れた。

また、異年齢活動の時間だけではなく、3・4歳児は自由に保育室を行き来して遊ぶ姿が見られるようになった。日常的に教職員が連携を図り、異年齢の関わりがもてるように意識してきたことが子どもの育ちにつながったと考える。5歳児の姿に憧れをもった4歳児は、1学期に比べ積極的に3歳児や未就園児に優しく関わろうとする姿が増えてきた。

不安げに登園した3歳児は、5歳児が通用門で手を繋いで保育室まで連れていくと安心感から、笑顔で保護者と門で別れられるようになった。関りが深まってきたからこそその姿であると言える。

作品展では、わくわくチームに分かれて、各学年の作品を見て回ったり、自分の作品や友達の作品を同じチームの異年齢の友達に工夫したところを説明したり尋ねたりするなど、親子で鑑賞するのとはまた違った満足感を味わっている姿が見られた。

12月に入ると、一緒にマラソンを行い、5歳児が体を温めてから遊ぶことの大切さを3・4歳児に教えるなど、「伝えたい」「教えたい」といった5歳児としての自覚がより一層深まり、他学年の子どもたちも園庭に出る際「マラソンしよう」という声が進んで聞こえるようになった。

3・4歳児は保育室が同じ1階である。教師が幼児同士をつなぐ橋渡しとなり、昼食後、4歳児が『歯みがき先生』になって歯みがきの仕方を3歳児に教える姿が見られるようになった。3学期に入ってから継続し、子ども同士が関わり合う姿が見られるようになった。4歳児にとって、3歳児の世話をする喜びや、人の役に立つ喜びを味わうことができる経験が自己肯定感を高めることにつながり、互いに育ち合う姿につながったと言える。

3学期からは保護者への発信の一つとして、異年齢活動のねらいを毎月の園だよりでも知らせた。日頃の交流内容や子どもの育ち・成果を可視化し、ねらいと併せて関わりの様子を月末のクラス帰りや園庭開放などでも、具体的に伝える工夫をしてきた。

次年度への改善点

- ① 避難訓練での子どもたちの様子や、改めて教職員で共通理解したことを保護者にも知らせ、子どもだけではなく保護者の防災意識も高められるように発信方法を工夫する。(大阪市防災アプリ・各区の防災情報の知らせ方)

教職員間連携についても、様々な状況に応じて臨機応変に対応する力を備えるよう研修等、積極的に参加し知識を高め、情報を共有していく。

園児引き取りカードを常時携帯する、避難経路の意識付けなど、災害時を想定した保護者の危機意識を高められるような啓発の仕方を工夫する。(外部講師の招へいも検討する)

- ② 次年度以降も担任間で子どもの実態を捉え、学年ごとのねらいを明確にもち、活動内容を工夫するなど、子どもの育ちにつながるような手立て・育ちを可視化していけるように努める。

大阪市立北中道幼稚園 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○ 今年度の本園保護者アンケート調査で「幼稚園は家庭に向けて子どもたちの育ちを分かりやすく知らせていますか」の項目の「そう思う(だいたいそう思う)」の割合を80%以上にする。 ○ 今年度の本園保護者アンケート調査で、「幼稚園は、子どもや保護者に対して、基本的な生活習慣が身につくように、分かりやすく伝えていきますか」の項目の「そう思う(だいたいそう思う)」の割合を80%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向3 幼児教育の推進と質の向上】 就学前教育カリキュラムを活用し、小学校生活への円滑な接続を図っていけるように、校種間の連携の在り方や、小学校生活を見据えた教育内容の発信の工夫をする。 指標 年に10回以上、子どもの育ちを発信する機会をもつ。	B
取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】 子どもや保護者の実態を把握し、時期やタイミングを捉えて、計画的に保健指導を実施する。 指標 発達段階に応じた保健指導を年10回以上行い、また保護者を対象とした教育発信を工夫する。(年に2回)	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
○ 「幼稚園は家庭に向けて子どもたちの育ちを分かりやすく知らせていますか」 ・ ・ ・ 100% ○ 「幼稚園は、子どもや保護者に対して、基本的な生活習慣が身につくように、分かりやすく伝えていきますか」 ・ ・ ・ 100% 【取組内容①】について 令和4年度3月に文部科学省から『幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き』(初版)が示された。4/24森ノ宮小学校、4/28北中道小学校に、園長が1年生の授業を見に行かせていただいた。小学校の先生方の指導方法を教職員間で共有し、小学校教育への理解に繋がった。 5/10全園児園舎まわり散歩の際には、近隣小学校の校庭で体育の授業をしている小学生の姿を見て応援したり、校庭の遊具に興味をもったりと、就学に期待をもつ気持ちにもつながることができた。 6/9には、5歳児が玉津中学校体育祭の見学に行き、中学生のお兄さんお姉さんの走っている姿を応援することで、憧れの気持ちを抱き、小学校だけでなくその先の中学校生活のイメージや期待につながる機会となった。 1学期は、子どもの育ちについて、就学前教育カリキュラムを活用しながら、毎日の降園時にはその日の保育内容を子どもの姿から具体的に発信してきた。また、園長室だよりを1学期には2回、毎月クラスだよりを発行し、5歳児は就学を見据えて、遊びから学びに繋がっていることの発信を行った。3歳児・4歳児も『知・徳・体』総合的に育まれる姿の発信を行うことができた。 毎月末の保育室降園では、クラスだよりに掲載している内容の中で、実際に遊びを見ていただいたり、子どもの育ちの経過を知ってもらったりする機会となり、保護者の方々から

も子どもの幼稚園での様子を具体的に知ることができてよかったという声が聞かれた。

6/28に行われた第2ブロック研究保育の際には、第2教育ブロック指導主事（小学校・中学校）の先生方や、近隣小学校の校長先生を招いて、幼児教育について知っていただく機会となった。幼稚園教育を小学校・中学校へ発信していき、小・中学校に学びをつないでいきたい、というご感想をいただくことができた。

8/31に北中道小学校に、教員2人が授業の様子を見に行かせていただいた。授業の様子や子どもの姿を見に行かせていただき、電子黒板を使用した授業が工夫されていた様子を教職員間で共有することで、小学校教育の理解に繋がった。

9/25は北中道小学校の先生が来園し、5歳児のクラスの子どもの様子を伝えたり、実際に子どもが活動している姿を見ていただいたりした。就学までに育ってほしい基本的生活習慣についてもお聞きし、就学までにつけておきたい力を育てるために、保育の工夫や配慮の仕方を考えるきっかけとなった。

10/12は、地域支援を活用し府立支援学校の先生方から、子どもへの援助、関わりなどについて学ぶ機会となった。今後の保育を見直す良い機会となった。

10/14は、幼稚園の運動会に北中道小学校の校長先生が来園し、幼児の活動の姿を見ていただいたことで、幼児教育の大切さや幼小連携の意義に気付いていただくきっかけになった。

2学期も、子どもの育ちについて毎月クラスだよりや、園長室だより、保育室降園の機会を活用し、小学校生活を見据えてどのように保育内容を工夫しているのか、子どもたち一人一人の心や体が育ちつつある姿を具体的に発信することに努めた。

運動会への取組を通じて、5歳児の保護者からは少し難しいことに根気強く取り組む過程の中で、自信に繋がった子どもの育ちを感じているなどという声が聞かれ、子ども一人一人の育ちを実感してもらうことができた。

11/24に行われた作品展では、北中道小学校の校長先生や教員の先生方が数名来園し、子どもの作品を見もらう機会を得た。子どもたちの作品を見て、一人一人の子どもが思いをもって作品づくりに取り組み、自分なりの表現を引き出すために教師がどのような働きかけをしているか、興味をもったことにじっくりと取り組めるような環境の構成や指導の在り方を工夫している幼稚園教育について理解していただくきっかけとなった。

12/12は、地域支援を活用し府立支援学校の先生を招いて、保護者との面談をしていただく機会を設けた。子どもへの援助、配慮の仕方を教えていただき、3・4歳児は進級に向けて、5歳児は就学に向けて、保育を見直し、考えるきっかけとなった。3月には進級、就学に向けて更に見通しをもった保護者面談を実施していただく予定である。

1/9は、北中道小学校の先生と合同で幼小連携接続研修を行った。算数の授業の進め方について、研修を受けた。幼稚園第2ブロック指導主事の先生が講師として話をしてくださり、小学校の授業の進め方だけでなく、クラスだよりを用いて幼稚園について小学校の先生方に話をする機会があり、幼児教育を知ってもらう良い機会となった。幼児の姿を多面的に捉え、発達の特性や一人一人の実態を踏まえてカリキュラムを作成し、文字や数量に触れられるような環境の工夫が小学校での教科学習のどこにつながっていくのか理解することにつながった。

2/7に行われた生活発表会では、それぞれの発達段階に合わせた取組を保護者の方や、地域の方、北中道小学校の校長先生方に見ていただき、子どもの育ちについても発信する機会となった。それぞれのクラスの保護者からは、子どもの心が育ったことや、友達と一緒に活動することで育まれたことがあったという声を聞くことができ、集団の中での、子ども一人一人の育ちを実感していただくことができた。

2/9は北中道小学校の先生が、2/15は森之宮小学校の先生が来園し、就学する5歳児の様子を見ていただいた。子どもたちが、小学校生活を安心して過ごすことができるように、就学後も小学校と連携していきたいと考えている。

2/14は、5歳児が北中道小学校に行き、1年生の授業の様子を見たり、学校探検をしたりして、小学校生活に期待をもつ機会となった。園に帰ってからお礼の手紙を書きたいと子どもたちから提案があり、お礼の気持ちと期待を込めた手紙を書いた。

3学期も月に1度『クラスだより』や『園長室だより』を発行したり、日々の降園時を用いて、一人一人の子どもの育ちについて発信したりすることができた。

また、学期末には園長が子どもの育ちを具体的に保護者に向けて発信したり、パワーポイントを用いて子どもたちの姿を知らせたりして折に触れて教育発信の機会を設けた。

【取組内容②】について

4月…歯みがき指導（4・5歳）、5月…歯みがき指導（3歳）、手洗い・うがい、
6月…むし歯予防（4・5歳）、7月…熱中症予防（3・5歳）、プライベートゾーン
について（4歳）、9月…早寝・早起き・朝ごはん（3・4歳）、10月…目の健康、
11月…よくかんで食べる、12月…かぜ予防、1月…排便について、2月…3色栄養

保健指導は、発達段階に応じた内容を考え、絵本や紙芝居、パワーポイント教材、手作りの教材を用いて、子どもたちにとって分かりやすい指導となるよう心掛けた。担任ではなく養護教諭が声をかけたり保健指導を行ったりすることで子どもたちの意識づけにつながっている。また、1日1回以上手洗いや歯みがきの様子を見に行ったり、声をかけたりすることで「見て見て！」「きれいになったよ！」と伝えてくれる子どもたちの姿があり、より意識が高まっている様子が見られる。しかし、うがいをする時に吐き出した水を蛇口にかけてしまう子どももいるため、正しいうがいの仕方を身につけられるよう、視覚的な環境の工夫も行っていきたい。

今年度はコロナ禍で控えていた昼食後の歯みがきを再開するにあたり、昼食が始まるタイミングで各クラス歯みがき指導を行った。6月には「歯と口の健康習慣」に合わせて、歯みがきの順番表と歯みがきカレンダーを配付し、家庭と連携して歯みがきの習慣が身につくように働きかけた。保護者のコメントから、歯みがきの大切さを理解し、家庭でも進んで歯みがきをしている子が多数いることや上手にみがけるようになってきたという子どもの様子を知ることができた。夏休み前にも歯みがきカレンダーを配付することで、歯みがきの習慣が継続できるようにした。

指導後、担任から継続して声かけ・指導をすることで手洗いや歯みがきの習慣が身についている様子が見られる。今後も担任と連携することで指導内容の定着を図りたい。

6月には花王カスタマーマーケティング（株）と連携し、「手洗い教室」、「はをみがこう教室」を開催していただき、外部とも連携することで子どもたちの手洗いや歯みがきの意識を高めることにつながった。

8月には、園歯科医と連携し、4・5歳児親子対象の歯みがき教室を行った。専門的な立場から、分かりやすい講話と指導を行っていただき、事後の保護者アンケートでは、「丁寧に説明いただいたのでとてもわかりやすく勉強になりました。気になっていたことも知ることができ、良かったです」「仕上げみがきを嫌がっていたのですが、おひざに横になり、一本ずつ丁寧にみがけるようになりました」という感想があり、保護者のニーズに合った教室となった。今後も関係機関と連携しながら、保健教育を進めていきたい。

手洗いや歯みがきだけでなく、夏には熱中症予防、プール遊び前には水着で隠れるところ＝プライベートゾーンについて、2学期の初めには生活リズムを整えるために「早寝・早起き・朝ごはん」について、「目の愛護デー」がある10月には、目の健康について話をするなど、時期や実態に合わせた保健指導を行った。

保健指導で取り上げた内容は、毎月発行する保健だよりに掲載したり、使用した教材や指導内容を降園時に掲示したりすることで保護者へ啓発を行った。11月の作品展では『保健コーナー』を設け、保健指導で用いた教材や指導内容の展示を行った。子どもたちは指導の内容を振り返り、保護者の方は保健指導の内容について知る機会となった。アンケートでは、「歯みがきコーナーの展示も子どもと一緒にやって楽しかったです」「保健コーナーが好きで、よく見ていました」という感想があった。子どもたちの興味を引く効果的な指導となるよう、今後も実際に触れて体験できる教材や掲示物を工夫して作成したい。

1月には、保護者にスライドショーを用いて話をする機会を設け、睡眠の大切さについて伝えた。事後アンケートの結果から、「睡眠の大切さがわかった」という項目に「そう思う」と答えた保護者が100%、「お子さんの睡眠リズムを整えようという意識が高まった」という項目に「そう思う（ややそう思う）」と答えた保護者が98%であった。「長期休みになると、どうしても早寝・早起きがルーズになりがちで困っていましたが、まずは早起きをすることが大切！というのとはとても勉強になりました」「大人ではなく、子ども中心の生活リズムを作り、成長をサポートしたいです」などの感想があった。また、聞いた内容を家族で共有した家庭も多数あったことが分かり、いい啓発になったと感じる。2回目の保護者向けの教育発信を2月29日に実施する予定である。今後も家庭との連携を大切にしながら、子どもたちの実態把握に努め、効果的な指導や保護者啓発ができるようにしていきたい。

子どもたちが自分の健康に対する関心を持ち、自分の体を大切にする気持ちや自ら健康に過ごそうとする意識をもてるよう、引き続き指導を行っていきたい。

次年度への改善点

①幼稚園が近隣小学校へ赴き、授業を見に行くことで、小学校教育を知る機会をもつ。

他校種の先生方にも幼稚園へ来ていただき、幼児教育を知ってもらう機会を設けることで、学びをつないでいくための校種間連携の在り方を考えていきたい。

毎月末の保育室降園で、保護者に向けて『就学前教育カリキュラム』を活用しながら、保育が子どもの育ちのどこにつながっているかわかりやすく知らせる工夫を継続して行っていく。

園庭開放の時間を利用し、個別に小学校生活を見据えた子どもの活動や姿について丁寧に発信する。

②保健指導の様子をホームページに掲載することで、取組を具体的に発信する。

担任と連携し、幼児の実態に合わせて、ねらいを立て指導案を作成し保健指導を行う。

手洗い場の掲示物を整えたり、正しいうがいの仕方が身につくよう天井に吊るしたばい菌のイラストを活用するなど、引き続き環境の工夫を行う。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ○ 今年度の本園教職員アンケートの「園内研修が充実していたと思うか」の項目について肯定的に答える教職員の割合を80%以上にする。 ○ 今年度の本園保護者アンケート調査で「幼稚園は地域に向けて教育内容を分かりやすく発信していますか」の項目について「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を80%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 全教職員で幼児の実態を把握し、教員の資質向上を図り保育実践に活かす。 指標 園内研究年間計画に基づいて、年4回以上園内研究を行う。	A
取組内容②【基本的な方向9 家庭・地域と連携・協同した教育の推進】 地域に開かれた幼稚園を目指し、地域連携の取組内容を工夫する。 指標 地域の方との交流の在り方を工夫し、学期に10回以上交流を行う。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
○ 「園内研修が充実していたと思うか」・・・100% ○ 「幼稚園は地域に向けて教育内容を分かりやすく発信していますか」・・・92% 【取組内容①】について 6月18日には指導要請を行い、教育指導員の先生から子どもたちの協同性につながる保育環境や働きかけについてご指導をいただいた。6月28日の第2ブロック研究保育に向けて、全教職員で幼児の実態把握と幼児理解ができるよう、日頃の子どもの姿や実態を捉え、働きかけの工夫をしたり環境の再構成を行ったりして保育の質の向上を目指して取り組んできた。協同性が育まれている姿の考察や分析を教職員で日頃から連携して多面的に幼児の育ちを捉えようとする姿勢につながった。 園内研修は6月に3歳児、7月に5歳児、9月に4歳児、1月に養護教諭による園内研修（5歳児）で合計4回実施した。教職員同士で保育を見合い、実施後は、振り返りの視点を4つに絞って明確にしながら、どのような子どもの育ちにつながったのかという反省を行った。日頃の保育を振り返り、保育の質の向上につながる機会とすることができた。すぐに保育実践につなげるため、研修実施後すぐに振り返りを行う機会をもつという反省点を生かし、1月の園内研修当日の振り返りでは、この1年に全教職員が連携しながら子どもの育ちにつなげるための保育の質の向上を図ってきた取組の総括を行うことができた。
【取組内容②】について 6月、5歳児が地域の高齢者総合福祉施設『ハミングベル中道』を訪問し、歌を披露するなど、1回目の交流を行った。その後、心のこもった手作りの飾りをいただいたことで、子どもたちが親しみを感じている様子が見られた。 11月には4歳児、2月には3歳児も訪問し、歌や手遊びを披露したり心を込めてつくったプレゼントをお渡ししたりして喜んでいただいた。高齢者の方々を身近に感じる機会となった。コロナ禍でしばらく叶わなかった交流の実現が、子どもたちが地域に親しみを持ち、大切に感じる心の育ちにつながった。

地域の方による読み聞かせ『絵本の会ピーターラビット』では、5月に2回、6月に2回、7月に1回、9月に3回、10月に3回、11月に2回、12月に1回、1月に2回、2月に3回来園し、子どもたちに絵本を読み届けてくださった。

夏季休業中、教職員向けの絵本講習会では教職員の学びとして子どもの心を育む絵本の大切さを再認識し、一人一人がそれぞれの感じ方を大切にする読み方を意識するきっかけとなった。

子どもたちがつくった笹飾りをつけた小笹を幼稚園教育の発信やご挨拶を兼ねて、日頃お世話になっている地域の方々にプレゼントする機会を設けたところ大変喜んでいただいた。

9月には、地域の和太鼓クラブ『飛童』さんが来園し、迫力ある和太鼓の演奏を聞かせいただいた。その後、子どもたちが直接太鼓に触れる時間を設けた。地域の小学生・中学生のお兄さん、お姉さんが優しく教えてくださったことで、和太鼓に親しみがもてるきっかけとなった。5歳児はこの経験がきっかけとなり、運動会のオープニング『もりのこばやし』を演奏し自信につながる姿が見られた。3、4歳児とっても憧れの5歳児の姿を見て和太鼓に興味をもつきっかけとなり、その後の好きな遊びの時間でも紙の棒を太鼓のバチに見立ててリズム遊びをするなど、日頃からリズムや拍を感じて遊ぶ姿につながった。

11月には火除明神例祭に5歳児が参加し、火災の避難訓練を地域の方と一緒に見学させていただいた。住んでいる町の営みを知る機会となった。

2月には、大阪マラソンに向けたクリーンアップ作戦の一環で、地域・近隣小学4年生と5歳児の合同で清掃活動を行った。子どもたちからは「掃除ができて町がきれいになったことで心がポカポカした」という声や、校長先生から「ゴミを減らすにはどうしたらいいのか考えながら掃除をしよう」というお話を受けて、普段している素材遊びが、ごみを減らしリサイクルにつながるという意識をもつきっかけになった。

降園時の連絡の際、1日の様子を個別に細かく伝えたり、毎月のクラスだよりやホームページで具体的な子どもの写真をドキュメンテーション形式で掲載したりするなど、幼稚園教育の中で育もうとしていることについてわかりやすく知らせる工夫を行ってきた。ホームページは、1学期に7回、2学期に8回、3学期に6回の学校日記の更新をし、クラスだよりを毎月掲載した。保護者からも他学年の『クラスだより』を拝見しているといった声も聞こえ、ホームページへの関心度が高い様子が伺えた。

未就園児活動については、5月から毎月約2回計画し、1学期は天候不良で実施できなかったため、2学期からは雨天でも室内で在園児と遊べるように、3歳児・4歳児の保育室で、日頃の遊びを一緒にしたり、歌を一緒に歌ったりして直接ふれあう機会を設け楽しめるように心掛けた。

9月の未就園児活動では、親子ふれあい遊び『まっちゃんつながりあそびうた』を通して、子育てをする保護者同士がつながり合える時間をもつことができた。時間が経つにつれ保護者の表情も和み、親子で楽しむ様子が伺えた。この時の参加者がその後の園庭開放にも参加し、4月から入園予定である。

10月のミニミニ運動会では未就園児競技（かけっこ）の際、4歳児がプレゼントを渡す機会を設けた。この時、未就園児と関わることで、小さな友達への思いやりの気持ちをもつことや、「ありがとう」と言われたことで人の役に立つ喜びへとつながった。

園庭開放を利用する未就園児の保護者の方々は、ホームページを見ている方が多い。今後も未就園児と在園児が直接関われる機会を工夫したりホームページを積極的に活用して発信したりすることで、日頃の保育内容や教育方針をわかりやすく地域に向けて効果的に発信できる機会、普段の遊びや成長の様子を知ることができる機会として、引き続き、実りある情報発信を継続していきたい。

次年度の改善点

- ①年間計画に基づいて、今後も園内研修の機会を大事に活用していく。各自が行った研修についても報告する機会をもち、研修内容を共有する。

また、次の保育実践に活かすことができるよう、園内研修実施後は速やかに、振り返りの時間を設ける。

- ②地域や近隣校に幼児教育について発信し、理解を深めていただけるよう機会を設ける。幼稚園教員についても、小学校教育についての見識を深めるよう研修等に参加する。また、地域連携を図り、子どもの育ちを支えていく。